

改革のエネルギーを燃やせ

今村 奈良臣（JA総合営農研究会代表委員）



皆さんありがとうございます。特に夕べ一杯飲みながらの議論は、痛快な激論をたくさん耳にしました。私は足が悪いものですから、あの人と話したい、あの人には文句を言いたいとたくさん思っていたのですが、それは叶いませんでした。なんといつても昨夜の会場は狭すぎたよ（笑）。もう少し広ければ話ができたのだけれど、小屋に閉じ込められたようで、飲むだけ飲めと言わんばかりでした。しかし大変有意義な一晩でした。ありがとうございます。

総括しろと言われたのですが、もうだいたい皆さん、昨日から今日にかけて報告がわかっていると思います。まず、問題提起の黒澤報告がありまして、それから中

山間地域でキノコや果樹を主力に販売を伸ばし、合併してないJA中野市・佐々木常務の報告は大変おもしろかったです。

次に、園芸産地の茨城県JA岩井の夏ネギ・春レタスの2大作物の産地をいかに形成するか、その指導と販売戦略をどうするかということで多彩な報告を内田常務と吉岡営農部長からお聞きしました。タレントまで使った販売戦略をやる農協が出てきたのだということに私は大変びっくりしましたが、大変勉強になりました。かつてこの研究会でJA岩井のような斬新な報告はあまりなかったように思います。

それから今日のJAいわて花巻は、何度か講演に行

き瀬川さんもよく知っているのですが、旧花巻市街だけでなくて、東西、山の中から海の近くまでたくさん組合員がいます。合併農協というのはそういうものなのです。とにかく農協が一体感を持つには、女性が一心団体になるような精神だったら成功すると思っています。ここでは女性を支店長にしている比率が非常に高く、一時期は27人もいたと思います。例えば貯金や共済で何を作ったらいかがどう作るかということは女性の方が聞きやすいらしいのです。

最後にJ A ふうおか八女東京営業所長の大藪さんから直販事業の実態、メリットとデメリットをご報告いただきました。私も運送・配達というのが、今でもそうですがこれから大問題になってくると思います。これは遠隔産地である特に九州や北海道で、それも米とか麦と言うなら別ですが、生鮮食品でどうしたらいいかということにいろいろと頭を悩ませております。牛肉や豚肉といった畜産物とはかく、鶏卵、野菜、特に果物になるとどうしたらいいか、マーケティング路線を考えていただきたいと思っております。

その基本路線の大筋・原則は、昨日の黒澤報告にいくつかありました。「協同活動をベースにした組合員合

意形成の運営指針」のところに書かれています（P 20）。この15項目が箇条書きに書かれている1文1文はなかなか重いのです。これもこれから拳拳服膺けんけんふくようする時間もないですし、その必要もないと思います。各農協の今日おいでの皆さん方、ぜひ黒澤さんの資料の、特に太字で書かれたところはもう一度見直していただいて、自分のところではどうか、どこを直さなければいけないかをチェックし、あるいはこうしなければいけないのではないかとこの姿を考えてみてください。黒澤さんは非常に熱弁をふるっております。字面にその熱弁の姿が出ておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

私が黒澤さんを「これはなかなかの男だ」と思ったのは初めて会ったときです。コンニャク・生糸の自由化で甘楽富岡の売り上げが83億円から10億円に一挙に激落して、もう破産状態のときにJ A 甘楽富岡に行きました。黒澤さんはそのときに「かぶらの里振興計画」という非常に精密な計画を作っておりました。その計画には、標高170mぐらいから900mぐらいまで標高差がある地帯なのですが、50mおきに何をつくるか、いつつくるかがきちんとわかるように図面に書き

てありました。これを見たときに、この図面を作るだけではなくて、みんなに納得させて、そしてつくらせて販売に持つていくというシステムをどう作るかというところに非常に関心を持つておりました。それがこの研究会の基本になったわけです。私がこの研究会をやるという、一番の発火点というか、心にパッと火がついたときがあつたのです。全農協にそれと同じことをやれと言うつもりはありませんが、基本路線はこういうことをやってほしいと思つたのです。

それからもう一つは、一杯酒を飲みながら黒澤さんから「先生は何でも知つているみたいだけれど、東京で隅田川の東はハウレンソウは一束も売れず、コマツナが売れます。そして渋谷など山の手のほうはコマツナなんて一束も売れなくてハウレンソウが売れるんです。これは知つていましたか？」と言われました。なるほど、農協を指導するにはこうしたことも考えてやらなければいけないと思ひました。一事が万事ですから、私は大変心を動かされたのです。「よし、これならやろう!」と、先は何も見えないながらJA-I T研究会を立ち上げました。

それで人間というものはおもしろいもので、そうい

うことを契機にして私もさらなる勉強をしました。全農協を歩く機会がありました。その折にやはり最初に発想したことを考えて、応用問題はたくさんありますから、それをどのように活用していくかということ、これまでそれなりに勉強し、かつ指導してまいりました。それがJA-I T研究会につながり、50回を契機に総合営農研究会に名称を変えましたが、53回まで公開研究会を行なつてきました。考えてみれば随分やつてきました。

そして今回久しぶりに皆さんにお会いしました。農協を取り巻く環境はますます厳しくなるでしょう。けれども、「それぐらいへっちゃらだ、次を考えよう」ということで、昨日と今日のご報告を胸にしまひながら、明日から頑張つていきたいと思います。これからもJA総合営農研究会に参加して発展させていきたいということをお願いしてやみません。ありがとうございました。

(2019年11月9日)